

令和 5 年度 県立佐和高等学校自己評価表

目指す学校像	1 平和と社会の正義を重んじ、誠実で自主的な実践力のある人間の育成 2 人格の陶冶と学力の向上に努め、真理を求める創造性豊かな人間の育成 3 文学や芸術を愛し、情操豊かな幅広い教養を身に付けた人間の育成 4 国家や郷土を愛するとともに、自他を敬愛し、協調と連帯の精神に富む人間の育成 5 心身の錬磨に努め、強靱な体力と忍耐力を備えた人間の育成			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
<p>校内フリーWi-Fi や電子黒板、クロームブック等の ICT 機器とロイロノート、スタディサプリなどの教育ソフトを活用した分かりやすく、主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザインに全教科で取り組んでいる。</p> <p>また、豊かな心の育成の一環としてボランティア活動を位置づけており、全校生徒がボランティア活動に参加できるように全校ボランティアディを設け、ホームルームの年間活動計画にもボランティア活動の時間を組み込んでいる。</p> <p>生徒の長所を最大限に伸ばし、進路実現につながるような 3 年間を通してのキャリア教育が急務である。そのためにも一人一人に高い目標を持たせ、授業改善を進めながら学力の向上を図る必要がある。</p> <p>地域との連携については、地域のボランティア活動等に参加するほかに、学校の広報活動に力を入れ、地域に愛され信頼される学校づくりを進めていく。</p>		授業改善を通した確かな学力を育む学びの推進	<ul style="list-style-type: none"> 協働的な学びと ICT 機器を活用した質の高い授業づくりの推進 授業改善に向けた教員による相互授業参観の推進と校内研修の実施 生徒による評価（授業満足度）平均 3.0 以上の実現 	A
		豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性と社会性を身に付ける特別活動の充実 思いやりや助け合いの心を育成する社会奉仕体験活動の推進 一人一人に寄り添う教育相談の体制と生徒支援の充実 	A
		夢を実現するキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個性に沿う進路実現を目指す個別指導の推進 実践的・体験的な活動の充実とキャリア・パスポートの活用の促進 自己の可能性追求や自己実現に向けたキャリア・カウンセリング機会の確保 	B
		地域住民に開かれ、信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動や行事等への積極的な参加の促進 地域に信頼される学校を目指す広報活動、学校公開の推進 地域社会・保護者と連携した一体感のある学校づくりの推進 	B
		教職員の働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 長時間労働の解消に向けた教職員在校等時間の詳細な把握・分析 校務分掌の見直しによる教職員のワーク・ライフ・バランスの実現 教職員の勤務時間の適正化の推進 	B
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会に貢献する、心豊かな人間の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、進路希望の実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	自分の進路実現を目指し、主体的に日々努力する生徒		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
教科	国語	豊かな人間として生きるための国語力の向上	I C T機器を積極的に活用し、授業の内容を充実させ、様々なものの見方、考え方、感じ方を知り、判断力及び幅広い人間性の育成を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ICTの積極的な活用や、科内での実践例の共有によって授業内容を充実させる。 引き続き授業や課外・漢字テストで語句・語彙を増やし、資格取得につなげる。
		自己学習能力の向上	家庭学習（予習・復習）の習慣化を図る。	B	
		基礎・基本の充実	年間16回を目安に漢字テストを実施し、常用漢字の学習の充実を図る。	B	
			I C T機器、国語便覧を活用し、教材の理解を深めさせる。	B	
		進路実現のための対策	課外指導等を実施し、実力の養成を図る。 漢字検定を年2回実施し、資格取得を奨励する。	B	
	地歴公民	基礎学力の充実	中学校での既習内容の発展的理解を目指すとともに、小テストの実施や視聴覚・ICT教材の活用等によって、高等学校の地歴・公民教育に必要な基礎的知識の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きICT教材活用の充実を図り、生徒が充実した社会生活を送ることができるよう基礎学力を確実に定着させる。
		分かりやすい授業の実現	授業内容を検討するとともに教材を精選し、指導方法・授業の質の向上を図る。	A	
		自主的学習態度の養成	授業内容と現代社会との関わりを生徒に考えさせることによって、社会参画する主体的な態度を養う。 生徒自ら学習し、理解を深めることによって、学ぶことの楽しさを実感できるような授業形態を工夫する。	B	
	数学	基礎学力の充実	教科書準拠の問題集を活用し、問題演習を通して基礎・基本の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き単元テストや課外、ICTを活用した授業を実践し、学習の習慣化や基礎基本の定着を目標とし指導していく。
			単元テストや課題などを通して、予習・復習を促し家庭学習の習慣化を図る。		
			成績不振生徒に対して、補習や不振者課外などを行う。		
		実力の養成	I C Tを活用した効率的な授業を行い、実力の養成を図る。 進路に応じた課外授業を行う。	A	
	理科	豊かな科学的素養の涵養	I C Tなどを活用し、興味・関心をひく授業の工夫と分かる授業の展開を心がける。	B	<ul style="list-style-type: none"> 理科を入試で必要とする生徒に対して合格できる学力を計画的に身につけさせる。 基礎学力が乏しい生徒に対して継続的に指導を続けていく。
			観察や実験を取り入れるなど、直接ものにふれる機会を増やす。		
			日常生活での科学の役割や地球環境とのかかわりを重視して指導を行う。 科学的な考え方、表現や発表する力を養う。		
		進路実現のための指導	小テストや課題による学習の理解度・到達度を確認するとともに、宿題など家庭学習を定着させて、基礎学力の向上に努める。 課外等で問題の解決法などをきめ細かく指導する。	B	
	保健体育	基本的生活習慣の確立	始業時間遵守や授業参加の大切さを理解させる。 挨拶や返事、身だしなみを整え、授業に臨ませる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生涯スポーツへつなげられるよう、選択授業のグループ学習や種目の充実を図る。
		生涯スポーツの基礎の確立	健康や運動について科学的理解を深め、技術上達のための工夫や種目の特性を理解し、楽しさや喜びを体験させる授業を展開することにより、生涯スポーツへと結びつける	B	
		体力の向上	効果的な体づくり運動を取り入れ、年間を通して体力の向上を図る。	B	
	音楽	音楽体験の充実	I C Tを活用して適切な教材選択を図り、幅広い音楽体験を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き幅広い音楽活動をし、読譜力の向上を目指し指導する。
表現技術の向上		音楽的な見方・考え方を働かせ、楽譜を読み取り、個性豊かな創意工夫ある表現を目指す。	B		
美術	美術を愛好する心情、豊かな感性の養成	様々な技法や素材を用いた作品の制作を通し試行錯誤させることで、表現の活動を存分に経験させる。 言語活動を中心とした鑑賞を行うことで、造形的な見方、考え方を共有させ、自己肯定感を持たせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動の中で、効果的なICT活用の模索を継続していく。 	
	美的体験の充実	I C Tの活用による制作や鑑賞を行うことで、主体的に鑑賞や表現の活動に取り組む態度を養成する。	B		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

別紙様式2 (高)

教科	英語	確かな学力の養成	説明や物語などを読み、情報や考えなどを的確に理解したり、自分の考えを適切に伝えたりする英語力を身につける。また、その英語力で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 スピーチ・プレゼンテーション・ディスカッション・ディベートなどの言語活動を通して、「話すこと」「書くこと」といった英語のアウトプットを強化する。パフォーマンステストにより評価し学習動機を強化する。ALTを週2日活用し、興味関心を喚起する。	B	B	・英検の新しい問題へ対応する。 ・1科目複数担当の場合、授業リーダーを設置して、活動案やパフォーマンステストを提案する。
		大学入学共通テストや民間テストへの対応	校内で英検等の英語外部試験を実施し、大学入学共通テストや4技能試験に対応した学力の習得を目指し、生徒の希望に応じた進路実現に寄与する。	B		
	家庭	社会の変化に対応した指導の充実	最新の情報を教材として使用し、衣食住の他、保育・福祉・消費生活など、家庭生活に関する幅広い知識と技術を身に付けさせる。	B	B	・実験や実習を各単元の中にバランスよく配置する。 ・知識の定着につながるようなグループ活動実践する。
		実験・実習、体験学習の工夫	限られた環境の中で、1回でも多くの実験・実習を行い、体験を通して実践的に学習させる。	B		
		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進	ホームプロジェクトの意義を理解させ、実践させるとともに、科学的な視点を取り入れた学校家庭クラブ活動を実施し、地域との交流を活発に行い、その成果を発表させる。	B		
	情報	情報に関する知識と技術の習得	実習を年間授業時間の5分の2以上行うことにより、情報機器およびアプリケーションソフトの基本的な知識と技能を修得させる。	A	B	・実習時間の確保と授業進度との関係を調節する。 ・学習内容についての補助的な解説・演習問題等の充実を図る。
情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度の育成		多くの情報の中から、自分に必要な情報を適切に収集、処理し、それを発信することができるようにする。情報の受発信者としての法令遵守およびモラルとネチケットに気を付けられるよう、情報社会の一員としての自覚を育む。	B			
コミュニケーション能力の習得		実習時に相互に教えあい、プレゼンテーションの作成・発表等を通してコミュニケーション能力の充実を図る。	B			
教務部	授業の改善	生徒による授業評価や相互授業参観、校内研修等により授業の改善を図る。	A	B	・学校ホームページやX（旧ツイッター）での情報発信を活性化する。 ・授業のさらなる改善及び指導と評価の一体化を目指す。 ・ICTの活用により業務の効率化を図る。	
	生徒の主体的・対話的な深い学びの推進	学習目標・学習計画を明確にし、学習環境を整えて主体的に学習する態度を育てる。対話的な授業の推進と、ICT、フリーWi-Fi環境等を活用した質の高い授業を行う。	B			
	魅力ある学校づくりの実現	教育課程と類型の変更に伴い、1学年と連携を図り2学年より進学指導に特化したクラスづくりをする。また、他の分掌や各学年及び教科と連携を取り、ランドデザイン、年間行事予定を作成する。	B			
	広報活動の充実	佐和高ホームページの定期的な更新と携帯サイトの積極的な活用をして開かれた学校を目指す。学校パンフレット、ポスターの制作や魅了ある学校紹介動画を作成する。部活動の体験を含めた学校説明会を実施する。また、その他の見学希望にも柔軟に対応する。	B			
	授業のICT化の推進	情報部と連携し、デジタル教科書や授業に必要なアプリケーションソフト、ハードウェアを整備する。	B			
	備品・設備の充実	定期的に文具や教務用具の点検及び補充を行う。職員室や印刷室等の備品等の整理及び整備を行う。教育活動に必要な備品を整備する。	A			
情報部	情報化の推進	定期的にサーバーの保守点検を実施し、システムを維持する。 職員のICTスキル向上をサポートし、業務効率化を図る。	B	B	・次年度から教務部内に編成されるが、「ICTを活用した授業の取組」の各教科による月例の発表は先生方のICTスキルアップにつながっているので今後も継続していきたい。	
	教育活動におけるICT化の推進	電子黒板、ChromE Book等を活用し、生徒にとって楽しくわかりやすい授業を提供できるように、職員に対しICT活用に関する研修や情報提供を行う。また、生徒が学習活動はもちろん、ホームルーム活動や部活動等で積極的にChromE Bookを使った活動ができるように支援する。	B			
	情報セキュリティの厳正なる管理	常に注意喚起を促し、職員の情報セキュリティに対する意識を高めるとともに、ソフト及びハードウェアの管理を徹底する。	B			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

別紙様式2 (高)

進路指導部	3年間を見通した進路指導体制の確立	各学年・各教科とも連携し、進路希望実現に必要な学力向上のための具体的方策を検討し、実施する。3年間を線で結んだような各学年の時期ごとに適した進路行事を計画・実施する。	D	C	・入学後から進路決定までの3年間の進路指導の流れを作り、各学年がおこなう進路行事とその目的を明確にする。
	LHR や総合的な探究の時間における「進路指導に関する項目」の充実	各学年の学級担任と連携し、入試改革や多面的総合的評価の導入にともなう指導に有効な情報及び進路資料の提供等を行う。	B		
	「進路の手引」の充実と活用	入試改革や社会の変化をふまえた上で生徒の実態に即した「進路の手引」を作成し、LHR 等において活用の仕方等を指導する。	C		
	進路相談の充実、進路指導室の活用の推進	昼休みと放課後における進路指導室の教員常駐化を実施し、生徒の進路相談、情報提供、資料の閲覧等に応じる。	C		
	外部機関(大学、短大、専門学校、企業等)との連携	看護体験、病院見学会、各種ボランティア、オープンキャンパス、進路説明会、公務員対策講座等へ早い時期から可能な範囲での参加を促す。また、WEBオープンキャンパスの積極的な利用を促す。	C		
生徒指導部	基本的生活習慣及び社会的な生活習慣の確立	登校時に、校紀委員等とともに立哨指導を行い、あいさつの励行を図る。	B	B	・学校全体で生徒を見守ることはもちろんだが、挨拶が売りの学校に向けて、教職員が積極的に挨拶をしていく。 ・SNS 絡みのトラブルが増加しており、集会等を通じて注意喚起していく。 ・指導件数0件に向けて、生徒理解に努める。生徒の実態を把握できれば、問題行動の未然防止につながる。いかに生徒の「日常」を知ることが大切である。
		身だしなみをきちんとするために、毎日の指導をはじめ、マナーアップ週間、学期初めや休業明け・考查最終日等に服装頭髪指導を行う。			
		遅刻防止を図るため、遅刻カードを利用し、時間の大切さを自覚させる。			
		早退カード・外出届を利用し、無断早退・外出を防止する。			
		スマートフォン等の使用に関して、LHR や集会等で注意を促し、マナーの向上を図る。			
	交通安全と事故の未然防止	「交通安全教室」および「スマホ・ケータイ安全教室」を実施する。	B		
		毎週2回の立哨指導、月2回の校外指導等を実施する。 必要に応じて校内巡視を実施し、生徒の日常生活に目を配る。			
	心の教育の充実(いじめ防止)	校紀委員等と連携し、本校生としてのプライドと自覚の醸成に努める。	B		
		全校ボランティア活動等を通じて、他人を思いやり、命を大切にしたい気持ちを育む。			
		生徒の実態把握・理解のため、職員間での情報交換を密にする。			
教員からの声掛けを励行し、トラブルやいじめの未然防止に努める。					
スクールカウンセラーとの連携により、生徒理解と適切な対応に努める。 スクールカウンセラーからのアドバイスを活かし、クラスごとに心の教育の充実を図る。					
特別活動部	心の教育を重視したHR活動	ねらいに沿った綿密な計画の作成と時間の確保を図る。 スケートやボランティア等の体験をすることによって、生徒同士が真剣に語り合えるようなクラスの雰囲気づくりを図る。	B	B	・今年度の反省をもとに行事日程選定(クラスマッチの次の日は生徒休業日になるように設定するなど) ・次年度の文化祭のスケジュール作成と準備
	活力を生む学校行事	生徒に感動を与える行事づくりを企画する。	B		
		生徒の自主的な企画を尊重して、積極的な参加につなげる。 チャレンジプロジェクトとの連携を図り、キャリア・パスポートを活用してボランティア活動に積極的に参加させる。			
	生徒会活動の推進	企画と準備を綿密に行い、各活動の達成度を向上させる。	B		
		達成感が得られるような支援体制づくりを図る。			
	部活動の活性化	年度当初の新入生への部活動紹介を工夫し、加入率の向上を図る。	B		
部活動顧問会議、部活動運営委員会等を通して、円滑な活動を推進する。					
施設の有効利用	コスモホール、多目的ホール、トレーニング室の積極的な活用を図る。	B			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

別紙様式2 (高)

保健厚生部	健康教育の充実	保健委員会の指導と生徒への健康相談及び健康教育（講演会含む）を充実させる。	B	B	・感染症対策への取り組みを強化する。 ・安全点検の項目を見直し、より安全な環境づくりに活かせるようにする。
	防災意識を高め災害を想定した避難誘導	全職員を役割分担し、迅速な避難誘導ができるようにする。	B		
	学校の生活環境の整備	学校内の美化に努めるとともに、感染強予防対策及び安全点検等を行い、学校環境を整備する。	B		
	奨学金業務の円滑化	迅速な情報提供と応募生徒の指導を行う。	B		
図書部	授業・部活動・HR活動に必要な資料、図書の整備・充実とその積極的な活用	希望図書・教科関連図書・学習参考書・視聴覚資料を選定し、購入する。	B	B	・授業やHR活動等も含めて、図書館の活用をPRする。 ・図書委員会及び視聴覚委員会活動の活性化を図る。 ・他校との情報交換の機会を増やす。
		各教科・HR担任・進路指導担当との連携を図る。 ビブリオバトル等の図書を用いた行事を企画し、実施する。			
	図書館充実のためのサービス向上	適正・迅速な購入、レファレンスサービスを推進する。 学習並びに進路選択のための資料を提供する。	B		
	図書委員会・視聴覚委員会活動の充実	例会の充実、広報活動の推進を図る。 各種研修会・ボランティアに参加する。	B		
	視聴覚機器の授業等に対応した環境整備	授業・行事等に対応した環境整備に努める。 視聴覚機器の整備・活用に取り組む。	B		
渉外部	PTA活動の活発化	総会の出席率向上を目指す。(24%超え)	B	B	・各事業の継続、充実、文化的なふれあい講座の実施。
		各学年・各専門委員会活動の活性化を図る。 PTAふれあい講座の内容の充実、及び参加率の向上を目指す。			
	同窓会との連携	定期的な情報交換を実施する。同窓会入会式の実施。	B		
第1学年	基本的な生活習慣の確立	清掃を徹底させ、学習環境の整理整頓に努めさせる。	B	B	・服装・頭髪をきちんとしなければならないという意識は持っているが、易きに流れる傾向にある。日々生徒に伝え続ける必要性がある。 ・基礎学力の向上及び多様な進路希望の実現に向けての指導を充実させる。
		立哨指導や集会時の指導等を通して、挨拶の励行、相手を尊重し人の話をよく聞くという基本的なマナーを身につけさせる。			
		定期的に行う服装・頭髪指導等により、きちんとした服装・頭髪と規律ある生活をさせる。			
		各教科との連携を図り、チャイムと同時に着席させ、日常の授業に集中して取り組ませる。			
	基礎学力の向上	朝の読書に取り組むことにより、基本的な生活習慣の定着を図る。また、読書の習慣を身につけるとともに、落ち着いて授業を受けられる学習環境と学習態度を身につけさせる。	B		
		進路指導部と連携し、進路意識を早期に確立させ、その実現に向けて努力させる。			
		課外、希望模試、外部英語試験、学習支援プログラム等への積極的参加を奨励する。 学習動画やスタディサプリを活用し、家庭学習の習慣の定着を図る。			
生徒指導の充実	面接等を通して、学校生活へのスムーズな適応を助言、指導する。	A			
	心身面で問題を抱える生徒に対して、教師・スクールカウンセラー及び家庭との連絡を密にして対応していく。				
特別活動の充実	部活動、委員会、生徒会、HR活動等に積極的に参加させ、幅広い活動を体験させる。	B			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

別紙様式2 (高)

第2学年	基本的生活習慣の確立	挨拶をはじめ、基本的生活習慣を確立することにより、生活全般の自己管理能力を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 概ね基本的生活習慣は身についたようではあるが、一方で、欠席者や遅刻者の多い生徒に対しては、家庭との連絡を密にし、規律ある生活をさせる。 朝読書、計画的な課外や進路行事を実施し、基礎学力向上や進路実現につなげる。 ICTのさらなる活用や主体的かつ対話的な深い学びの実践に積極的に取り組む。
		家庭との連絡を密にして、欠席・遅刻・早退等の保護者からの連絡を徹底させ、規律ある生活をさせる。 チャイム着席を徹底させ、授業に集中できる環境作りに努める。			
	学力の定着と向上	各教科と連携しながら自主的に学習する態度や家庭学習の習慣化を図る。	B		
		年間を通して「朝の読書」を実施し、落ち着いて授業に取り組む雰囲気作りをする。			
		漢検・英検等を推奨し、資格取得を促す。 平常課外・長期休業中の課外・模擬試験・学習セミナー等に積極的に参加させる。			
	進路指導の充実	小論文模試・ガイダンスの実施により、進路実現へ向けての文章表現力を養成する。	B		
進路ガイダンスや進路講演会等の進路行事を通して進路意識の高揚を図り、進路目標を確立させる。 個別面談を通し生徒個々の適性や能力等を把握し、進路意識を高め進路実現に向けて継続的な指導をする。 国公立大学を希望する生徒には個別指導を展開し、進学意識を高揚させ、進路目標達成を目指す。					
生徒指導の充実	SHRや立哨指導で服装・頭髪指導を継続的に行い、高校生らしい服装・頭髪やマナーを定着させる。	A			
	心身面で問題を抱える生徒に対して、家庭との連絡を密にしてスクールカウンセラー及び専門機関と協力して一人一人に寄り添う支援をする。				
特別活動への積極的参加	部活動、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動に積極的に取り組ませる。	B			
	体験的な活動を通してコミュニケーション能力と豊かな心を育てる。				
第3学年	生徒指導の充実	進路希望実現を念頭に置いた生徒指導に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年の先生方を中心に、生徒の進路指導を丁寧に行った結果、約200名の生徒の進路を実現させることができた。今後はその過程を報告、次学年に引き継ぎするなど継続した流れ作りに協力したい。 「信頼される社会人」となる準備として、正しい服装や挨拶などの基本的マナーを身に付けさせることをより徹底する必要がある、1学年時からの積み重ねの重要性を共有する。
		「信頼される社会人」となる準備として、正しい服装や挨拶などの基本的マナーを身に付けさせる。			
		清掃等を徹底させ、学習環境の整理整頓に努める。			
		心身面で問題を抱える生徒に対して、教師間及び家庭と情報を共有しながらスクールカウンセラー及び専門機関と協力して適切な支援を行う。			
	学力の向上	チャイムと同時に着席させ、授業に集中できる環境づくりに務める。	B		
		課外や学習セミナー等へ積極的に参加させ、推薦・一般入試に対応できる学力を身に付けさせる。			
	進路希望の実現	英検・漢検等の資格取得を促す。	A		
		生徒の実態に応じて授業の形態を工夫し、主体的に授業に取り組ませる。			
各教科との連携を深め、自主的に学習する態度や家庭学習の習慣化を図る。					
朝読書を実施することで、落ち着いた生活リズムの定着を図る。		B			
面接やガイダンスなどを通して、進路希望実現のための小論文・面接等の助言・指導を徹底して行う。 オープンキャンパス・進路相談会等の実施を調べた上での積極的な参加を促す。					
ガイダンス・集会・面談などを通して、国公立大学進学希望者への推薦・一般入試に対応できる指導を徹底して行う。 社会に貢献できる力を付けるために、部活動・生徒会・委員会・ボランティア活動等に積極的に参加させる。					
特別活動への積極的参加	部活動・生徒会・委員会活動等に積極的に参加させる。	A			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない